

《どうでもいい話、その 511》

どうでもよくない皆様へ

こんにちは！毎日暑いですねー！

ノーベル物理学賞を受賞した小林昌俊さんが、学生時代に中学校で物理の講師をしたとき「世の中に、摩擦というものがなくなったらどうなるのか、記せ」と試験問題を出したそうです。答えは“白紙で出す”で、なぜならば鉛筆の先が滑って字が書けないからです。この世の中に摩擦がなければ、建物は、ボルト、クギ、くさびなどが役目を果たさず崩壊します。車もタイヤが滑って発車できず、坂道で引力の作用により発車できたとしてもブレーキがききません。パンツもずり落ちてしまいます。物理学上は摩擦こそが世界を安定させています。しかし同じ世界でも経済、外交、防衛上となると、不安定な摩擦だらけです。米中また日韓の貿易摩擦、米・イラン、日本と北朝鮮の外交・防衛摩擦など。国内でも政党どうし、京都アニメーション事件、吉本興業の労使間など、人間関係も摩擦でいっぱいです。ただ、人間関係でも男女関係の物理学上の摩擦はいいものです。どんな摩擦かって？ ウッフッフ！

岩波より